

2021年度第3回理事会議事録

1. 日時：2021年9月25日（土） 13:30～16:00
2. 場所：東京都 新宿区霞ヶ丘町4番2号 事務局本部よりオンライン会議（Zoom）
3. 出席者（テレビ会議による出席）

理事：総数 27 名中

松丸喜一郎会長 田村恒彦副会長 袴田登喜造副会長兼専務理事 横山幸子副会長
永谷喜一郎常務理事 大野明敏常務理事 三木容子常務理事 平井宏治常務理事
佐橋朋木常務理事 近藤正晃ジェームス常務理事 小風明常務理事 源洋子理事
成山悟史理事 田口亜希理事 松島愛理事 酒寄貴瀬理事 穂苅美奈子理事 寺澤良悦理事
田中僚一郎理事 横沢聡理事 尾崎和郎理事 高橋信吾理事 仲本渚理事 五十嵐治人理事
田中辰美理事

以上出席：総数 25 名

監事：総数 2 名中 岸高清監事 以上出席 1 名

4. 議事録署名人：松丸会長、田村副会長、袴田副会長兼専務理事、横山副会長、岸高監事
5. 袴田専務理事が 13 時 30 分に理事 25 名出席で成立するとの宣言をした。
6. 議長：代表理事 松丸喜一郎

松丸会長が、オンライン会議システムにより、出席者の音声即時に双方向に伝わり、適時的確な意見表明が互いにできる状態となっていることを確認して議案の審議に入った。

会長挨拶

今回も緊急事態宣言下、オンラインの理事会となった。12 月 4 日の次回理事会については緊急事態宣言の解除前提であるが集合を基本としたい。

2020 東京オリンピック・パラリンピックが無事に終了した。開催反対の声が渦巻き、多くの人々が不安を抱くなかで開催された大会も、一年延期、無観客など、オリンピック大会史上初めての困難を克服してやり切った。

参加した各国からは開催してくれたことに対し感謝と称賛の声が寄せられている。世界から選手が集い、競い合い、連帯するという大会の使命は、達成できたと考えている。大会の準備、運営にご尽力いただいた関係各位にこの場をお借りして感謝を申し上げる。

<2020 東京大会特別報告>

1. 袴田 2020 東京オリパラ準備運営本部長

オリンピックは、350 名あまりが 7 月 24 日から 8 月 2 日までの 10 日間競った。NT0 は、15 日間の出役となった。期間中、選手団からの大会運営に関するクレームはなく、整然と勧められ、予定通りにすべての競技を終えた。

パラリンピックは、144 カ国約 150 名の参加で 7 日間に 13 種目を運営した。入出国、銃器弾薬の輸出入、所持許可手続き、保管もトラブルなく管理されて終了した。

3 年前から準備を進め、特に NT0 は若手中堅を中心に育成研修を重ねた。役員として務める貴重な経験を得た人材を協会としては得たことになる。今後の競技運営にも活躍してもらえると確信し、みなさんに感謝する。

2. 田村選手強化委員長

東京 2020 開催に際しては、コロナ禍での感染防止対策の徹底をはじめ、緊急事態宣言下での移動制限、一般との隔離等、様々な活動を制約する状況で、

メダル獲得を目標に選手、役員一丸となって臨んだ。しかしながら、メダルを獲得することができなかった。

このような結果になったことは、責任を痛感しており、深くお詫び申し上げますとともに選手強化委員長を辞任する。

25mラピットファイアピストルでは、吉岡大選手が8位に入賞した。これは、13年前の北京オリンピックでの松田選手の50mピストルの8位入賞以来である。

選手層が厚くてコロナが収束した中国の一人勝ち、コロナ禍で閉鎖的であったアジア諸国は新鋭のインドを含め惨敗であった。

逆にコロナ禍でも国際大会を早くから開催していたヨーロッパ諸国は、半分のメダルを獲得する結果となった。

10mエアライフル種目では、世界的に男女共、若い選手が良い成績を出してきているのが目立った。この種目の優れた外国人コーチを国内に滞在させ、地方選手を含め幅広いタレント発掘を実施し、集中的な強化指導を行う戦略が有効と考える。

50m三姿勢種目は、体格、フィジカル面において優位なヨーロッパ強豪選手とでは差があるのはやむを得ない。女子種目では互角の勝負が可能。既に平田選手は、NTCでの集中した撃ち込み練習によって、据銃能力が十分に備わっており、風への一定の対応ができれば対等に戦える。

10mエアピストル種目は、男子では、第一人者が引退したが、現在のトップ選手の潜在能力は高い。

25mピストル種目は、男子ラピットファイアピストルについては、目途が立った。

選手達は、東京2020の大きな大会を経験して、色々な角度から反省し、次への課題を見つけた。また、NTCという射撃環境を得たこと、コロナ禍での規制や制約を課せられた社会的情勢の中ではあったが、競技力、人間力、共に一段と成長した。2024パリオリンピックでは必ずメダル獲得ができる。

東京2020にご協力いただいた方々に心より感謝申し上げます、理事の皆様への報告とする。

3. 田中辰美理事ラリンピック大会報告

障害者の種目を実際に日本で見たことがない日本のNTO、ITO、ボランティア方々が非常に高い現場の対応力を示した。各国のコーチや選手からも素晴らしい大会だったと聞いた。

強化についてもNTCでオリンピックの選手と一緒に合宿ができ、感謝申し上げます。

4. 松丸会長

メダルや入賞というよりも、本来の価値、意義というものが明らかになった大会だった。運営スタッフの素晴らしい仕事を海外役員からも称賛された。主役は選手であり、大会に出場した選手も出場しなかった選手も、大会の主役だったとおもっている。

近日到着予定のライフルスポーツ9月号は、オリンピック特集号として編集し、11月号はパラリンピック特集号を組みたい。

東京2020大会の評価は、二つの側面でエポックメイキングだと考えている。一つ目が大会の意義に原点回帰したアスリートのための大会であったこと。コロナ禍であって開催された大会は、商業主義の側面が薄れ、「アスリートのための大会」と

いう原点が浮き彫りにされ、勝負を超えて互いを尊重するアスリートの姿を際立たせた。ある意味、初めてクーベルタンが掲げたオリンピズムを体現した大会だったとも言える。

二つ目がスポーツから踏み出す共生社会が見えてきたこと。障害程度が多様なパラアスリートが同じ土俵で共に競い合う姿が教えてくれたのは、公平性や勝ち負けを超えた、「多様性と調和」だった。大切なのは選手たちがパラリンピック大会で体現してくれた「多様性と調和」を、「共生社会の実現」にどうつなげていくかである。本日の議題にはニチラが踏み出す一歩としてオリパラミックス大会の提案がある。よろしくご審議を賜りたい。

選手強化委員長として5年間尽力してきた田村副会長に感謝申し上げます。12月31日まで職に就いていただく。後任は佐橋常務理事を任命する。競技運営委員長は、12月の理事会で報告する。

<審議事項>

1. 本部および委員会の運営に関する規程改正の件

小風法務部会長より、p7「本部および委員会の運営に関する規程新旧対照表(案)」に基づいて説明がなされた。

- コンプライアンス委員会を設置し、総務委員会から業務分担を移動する。
- 女性の活躍促進に関する業務という表現について、7月の理事会の議論を反映して改定する。
- 緊急の案件が出た場合には、委員会の事務分担を他の委員会と共同で行えるようにする。

岸高監事より、コンプライアンス委員会と倫理委員会の機能分担について再議論するのか、との質問がなされた。

小風法務部会長より、コンプライアンス委員会は立案機関であり、倫理委員会は具体的な問題についてどのように対応するについてのものであり、切り分けについては今回考えていないとの回答があった。

議長がはかり、異議なく案の通り承認された。

2. 2021年度NT暫定要綱(案)

田村選手強化委員長より、p10「2021年度NT暫定要綱(案)」について説明がなされた。

- 2024パリ大会を目標目的として作成されており、正規の要綱ができるまでの暫定的なものとした。
- 対象試合で基準点を記録したものをNT選手として認める。
- 行動規範も引き続き遵守を求める。

議長がはかり、異議なく案の通り承認された。

3. けん銃、空気けん銃の推薦基準改定

大野推薦委員長より、p16「けん銃の所持に関する推薦基準」、p17「空気けん銃の所持に関する推薦基準」、p18「低年齢者の空気けん銃の所持に関する推薦基準」に基づいて説明がなされた。

- 今回のこの改正により、現状推薦が複雑化している推薦基準を分かりやすくする。
- 優先して枠を割り当てている低年齢者の推薦は、コーチがピストルかライフルなのか見極めて育ててもらう。

- けん銃の所持に関する推薦基準は、現状50人枠中32人枠使っている枠を活性化した。

袴田専務理事より、推薦担当へのブレッテンの発行をするよう、指示があった。
岸高監事より、本件は基準要綱の改定文を作って警察庁と協議する必要がある、との指摘がなされた。

松丸会長より、本理事会を通ったら警察庁と交渉をするよう、指示があった。
議長がはかり、異議なく案の通り承認された。

4. ジュリー名簿

佐橋競技運営委員長より、p19「ジュリー名簿更新について」に基づいて説明がなされた。

議長がはかり、異議なく案の通り承認された。

5. 公認審判員の承認

佐橋競技運営委員長より、p20「公認審判員について」に基づいて説明がなされた。

議長がはかり、異議なく案の通り承認された。

6. 2021 事業計画進捗・変更

佐橋競技運営委員長より、p21「2021 年度 主催競技会計画」p22「オリパラミックスイメント（エキシビジョン）」に基づいて説明がなされた。

- 8月全国高等学校ライフル射撃競技選手権大会は、緊急事態宣言中であつたが、スポーツ庁の方から中学生、高校生の活躍、活動、参加する場をなくさないでほしいという公式文書を複数回うけとったこと、および共催者の高体連がインターハイを開催したことをうけ、特例として開催した。

- 「オリパラミックスイメント（エキシビジョン）」大会の開催日が12月18日であるとの訂正がなされた。

議長がはかり、異議なく案の通り承認された。

7. NRAJ 認定D級コーチ資格新設

永谷普及・生涯スポーツ委員長および大木副委員長より p28「NRAJ 認定 D 級コーチ資格新設の件」及び p29「NRAJ 認定コーチ 要件・資格習得講習一覧」に基づいて説明がなされた。

- メンタルマネジメントを知らない方が多く、必要と考えて科目に入れた。

永谷委員長より、現在の協会はメンタルトレーナーやメンタルマネジメントを担当するコーチがいるのか、質問がなされた。

田村選手強化委員長より、技術とメンタルは共に一体で行うものでエミールコーチ及びゴランコーチがメンタル面の指導を行っている、との説明がなされた。

松丸会長より、ロンドン五輪のあと、リオ五輪に向けて溝部前選手強化委員長のもと、女性を含む3名のメンタルトレーナーと契約して、選手が自分に合うトレーナーを選んでメンタルトレーニングを実施したとの説明がなされた。

永谷委員長より、アーチェリーは類似性のあるスポーツでありが、どのような取り組みをしているのか、との質問がなされた。

穂苅理事より、強化部科学委員会メンバーにメンタルトレーナーが数名おり、選手と個人的にやりとりをしている、との説明がなされた。

松丸会長より、是非一度お話しを伺いたいとの依頼がなされた。

議長がはかり、異議なく案の通り承認された。

<報告事項>

1. 委員会報告：

1) 総務委員会

- コンプライアンス委員会委員長指名の件

松丸会長より、小風常務理事が同委員長に指名された。

- コンプライアンス委員会副委員長及び委員選任の件

小風コンプライアンス委員長より、副委員長として横山副会長、加盟団体代表として袴田専務理事、近畿ブロック理事の高橋理事が委員として指名された。

- 電子標的更新料の適正化についての考え方（競技運営委員会共同報告）

袴田専務理事より、p25「電子標的更新料に関する基本的考え方」に基づいて説明がなされ、減額分の収入の目処がついてから行うのか、かわりになる収入としてどのようなものがあるのかブロック理事の意見を伺いたいとの発言があった。

田中僚一郎関東ブロック選出理事より、将来的に（公認料の）予算化は難しくなっていると聞いており、速やかに代替案を考えていく必要があるとの意見があった。

高橋近畿ブロック選出理事より、お金をどうするかということでもかなり悩んでおり、3年に1回となると厳しく、出来れば薄く広くかけて負担感がないようにしていただきたい、との意見があった。

寺澤東北ブロック選出理事より、予算が立てられず登録料を安くして欲しいということをお願いされている、との意見があった。

横沢北信越選出理事より、新潟も予算を理由に縮小して台数変更をし、早急に代案が必要であり、資料の代替収入の2番（オフィシャルサプライヤーが販売する電的消耗品に公認料を設定）か3番（全国の大会参加記録を公認記録として登録料を設定）になると思う、との意見があった。

仲本渚九州ブロック選出理事より、回答があつた5県ともこの問題には悩んでおり、値下げはして欲しいが、各生徒たちの負担が増えるのであればやって欲しくないという県もあり、こういう案が良いのではないかという代案は出てこなかった、との意見があった。

平井中国ブロック選出理事より、広島射撃場は補助金がなくて苦しんでおり、代案として広く薄く取ると言っても電子標的を使ったこともない人からお金をとるのはどうかとの感じている、との意見があった。

東海ブロック選出理事（既に会議退出）及び四国ブロック選出理事（欠席）からは意見を聞くことはなされなかった。

大木財務部会長より、全く別の視点から収入を得ることも含めて、全体で均衡するようにしないと資金がなくなるので（代替の収入は）必要であり、ふるさと納税も1つの視点である、との意見がなされた。

袴田専務理事より、意見を集約して12月の理事会の議案にしたいとの発言がなされた。

- BR ミックスソフト検討結果

袴田専務理事より、財務部会で審議され、国体及びリハーサル大会が当面行われず、ISSFの変更の可能性もあることから、様子を見ることになった、との報告がなされた。

2) 推薦委員会報告

- 審査結果報告

大野推薦委員長より、p26「推薦委員会審査結果報告」に基づいて、説明がなされた。

3) 国体委員会報告

- 三重国体中止の報告

平井国体委員長より、9月26日が三重国体の延期申請期限だが、延期申請をしない報告を三重県から受けたため、中止が決定になったとの報告があった。

4) 選手強化委員会報告

- 外国人コーチの登用

田村選手強化委員長より、韓国のキムウーヨンコーチを日本在住で10mライフルコーチとして登用する予定である、との報告があった。

5) ジュニア育成委員会報告

- アスリートパスウェイの状況報告

三木ジュニア育成委員長より、各地域の緊急事態宣言解除をうけて、9月末から事業が実施されるので、各地域のご協力をお願いしたい、との報告がなされた。

- エリートアカデミー生募集に関する報告

三木ジュニア育成委員長より、今年度は大きな大会が開かれず、JOCの求める水準に達する選手を選べず、推薦をしないとの報告がなされた。

- 東アジアユースエアガン大会

三木ジュニア育成委員長より、幹事国のシンガポールはオンラインで開催する事を決定した事、及び日本からの出場者はランキング上位で選んでいくとの報告があった。

6) 競技運営委員会報告

- 2022事業計画案(検討資料)

佐橋競技運営委員長より、p28「2022年度主催競技会計画」に基づいて報告がなされた。

- 藤枝電子標的更新報告

佐橋競技運営委員長より、p30「電子標的の再公認について」に基づいて報告がなされた。

- ハンティングライフル規定変更

佐橋競技運営委員長より、p31「ハンティングライフルの規定変更に関する検討」に基づいて説明がなされ、12月の理事会審議事項にあげたい、との意見があった。

7) 普及・生涯スポーツ委員会

- 2021年度コーチ資格取得講習会の報告

永谷普及・生涯スポーツ委員長および大木副委員長より、p32「2021年度コーチ資格取得講習会の件」に基づいて報告がなされた。

8) マーケティング委員会報告

- e-スポーツプロジェクト

近藤マーケティング委員長より、p33「eスポーツ射撃プロジェクト概要」に基づいて説明がなされた。

- デジタル射撃プロジェクト

近藤マーケティング委員長より、p34「デジタル射撃プロジェクト概要」に基づいて説明がなされた。

2. 会務報告

1) 叙勲申請の進捗状況

藤井彌事務局長より、菊地名誉会員(2020年度申請)及び藤井優名誉副会長(2021年度申請)の叙勲申請の進捗状況について報告がなされた。

2) オリパラ記念時計の購入依頼

松丸会長より、東京2020大会記念時計の購入依頼がなされた。約30本在庫があり、購入単価1万円にて希望者にお分けする、との説明があった。

3) オリパラ記念バッジ

オリンピック・パラリンピック大会の記念のバッジを理事への記念として協会から進呈する、との説明があった。

4) その他

松丸会長より、事務局長会議を来年1月に開催したいとの説明があった。

松丸会長より、JOCアスリート委員立候補者が当協会にいるか質問があり、藤井彌事務局長より、現時点では立候補の応募はないとの回答があった。

藤井彌事務局長より、オリンピック終了後まで活動を控えていたアスリート委員の選任について報告があり、引退した松田選手にかわって吉岡選手が選任された、との報告があった。

松丸会長より、12月理事会は集合開催としたいとの説明があった。

16時00議長が閉会を宣言した。

上記議事の経過の要領及びその結果を明確にするため、出席した代表理事および監事が記名押印する。

2021年9月25日

議事録署名人

公益社団法人日本ライフル射撃協会

議長・代表理事

松丸喜一郎

松丸喜一郎



代表理事

田村恒彦

田村恒彦



代表理事

袴田登喜造

袴田登喜造



代表理事

横山幸子

~~松丸喜一郎~~
横山幸子



監事

岸高 清

岸高 清



以上

